

2019 年度版



京都市の 地球温暖化対策

気候危機

私たちはこの地球を
未来の子どもたちから
借りています。
未来の子どもたちに
豊かな地球環境を
返せるでしょうか。

(地球温暖化対策案例の見直しと新たな地球温暖化対策計画策定についての京都市環境審議会への諮問文より) (諮問文全文)

地球の平均気温は既に 1℃上昇, このままでは今世紀末には 4℃上昇

今、人類は「気候危機」「気候非常事態」とも言える時代に突入しています。

私たちは、未来の子どもたちに持続可能で豊かな地球環境を返すことができるのか、今その瀬戸際に立っていると言っても過言ではありません。

市民・事業者・地域の皆様、大学・研究機関、NPOといったあらゆる主体と行政が一緒になって知恵を出し合い、「気候危機」を克服するための行動を実践し、2050年CO₂排出量正味ゼロを実現しましょう。

京都市の地球温暖化対策

京都市では、全国で初めて地球温暖化対策に特化した条例を制定し、国よりも高い温室効果ガスの削減目標を掲げ、地球温暖化対策に取り組んでいます。

現行条例での京都市の削減目標

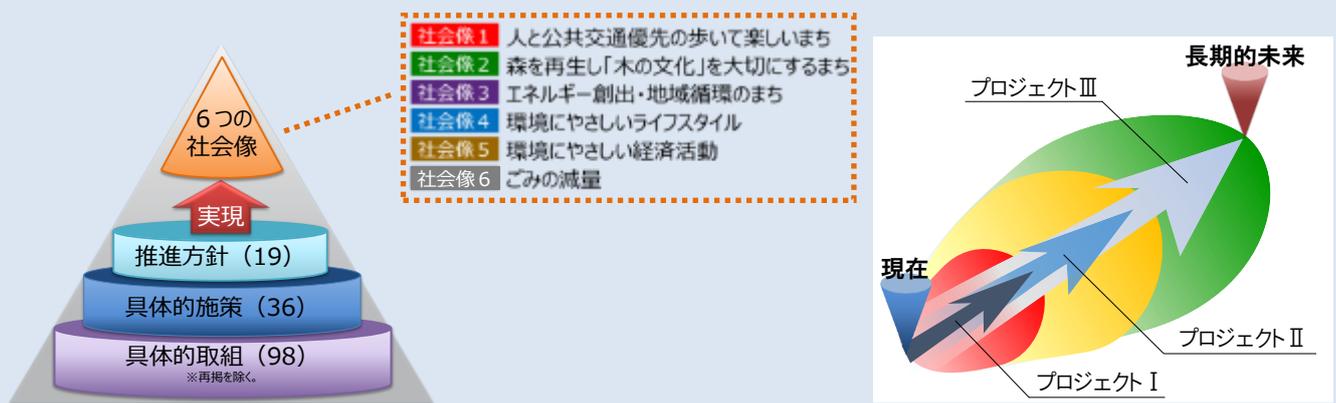
市域からの温室効果ガス排出量を、1990年度に比べ、

2020年度までに25%削減

2030年度までに40%削減

長期的には80%以上削減

低炭素社会の実現に向けて、京都市では「京都市地球温暖化対策計画<2011~2020>」において、京都の特性を考慮した6つの観点から2030年度の低炭素社会像を提示し、その実現に向けて地球温暖化対策に取り組むとともに、長期的未来を見据えた戦略「プロジェクト“0”への道」を掲げています。



「IPCC 京都ガイドライン」・「1.5℃を目指す京都アピール」が誕生！！

令和元年5月、京都市がホストシティとして開催を支援した「IPCC（気候変動に関する政府間パネル）」第49回総会で、パリ協定の実行に不可欠なガイドラインである「IPCC 京都ガイドライン」が採択されました。また、総会開催記念シンポジウムでは、京都市長が日本の自治体の長として初めて「2050年CO₂排出量正味年ゼロ」を表明するとともに、世界の平均気温の上昇を1.5℃以下に抑えるため、「2050年ゼロ」に向けて行動することを世界に訴える「1.5℃を目指す京都アピール」を発表しました。

京都市では、「1.5℃を目指す京都アピール」等について、国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）などの場で、国際的に発信しています。

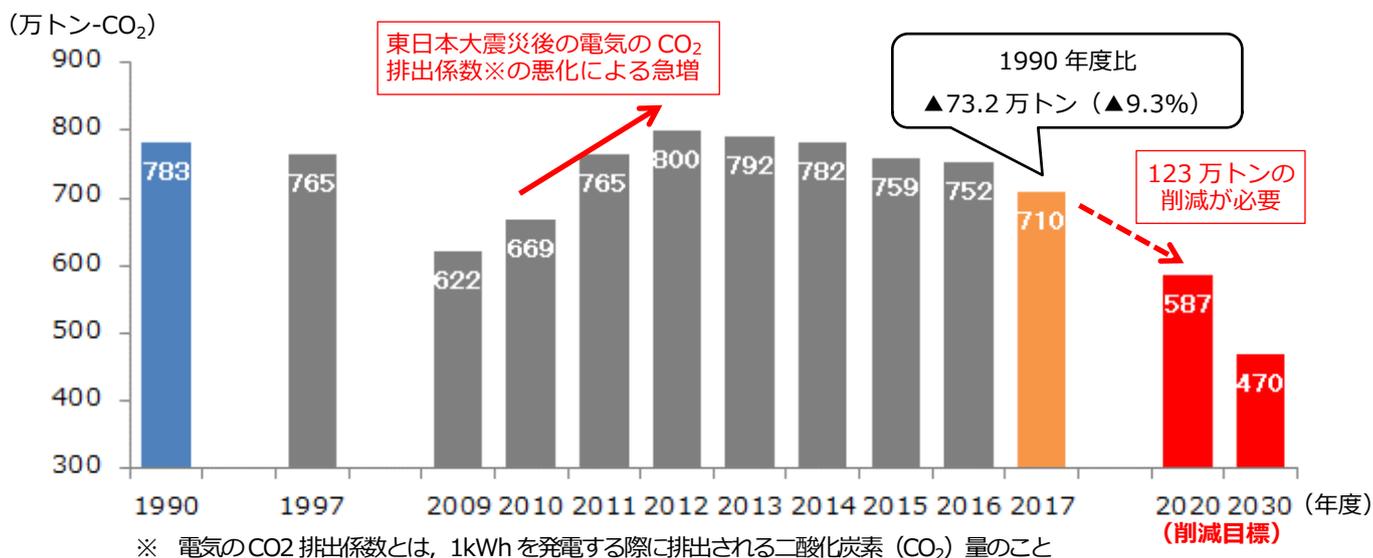


「1.5℃を目指す京都アピール」の発信
（IPCC第49回総会記念シンポジウム）

これまでの地球温暖化対策による成果

①温室効果ガス排出量の削減

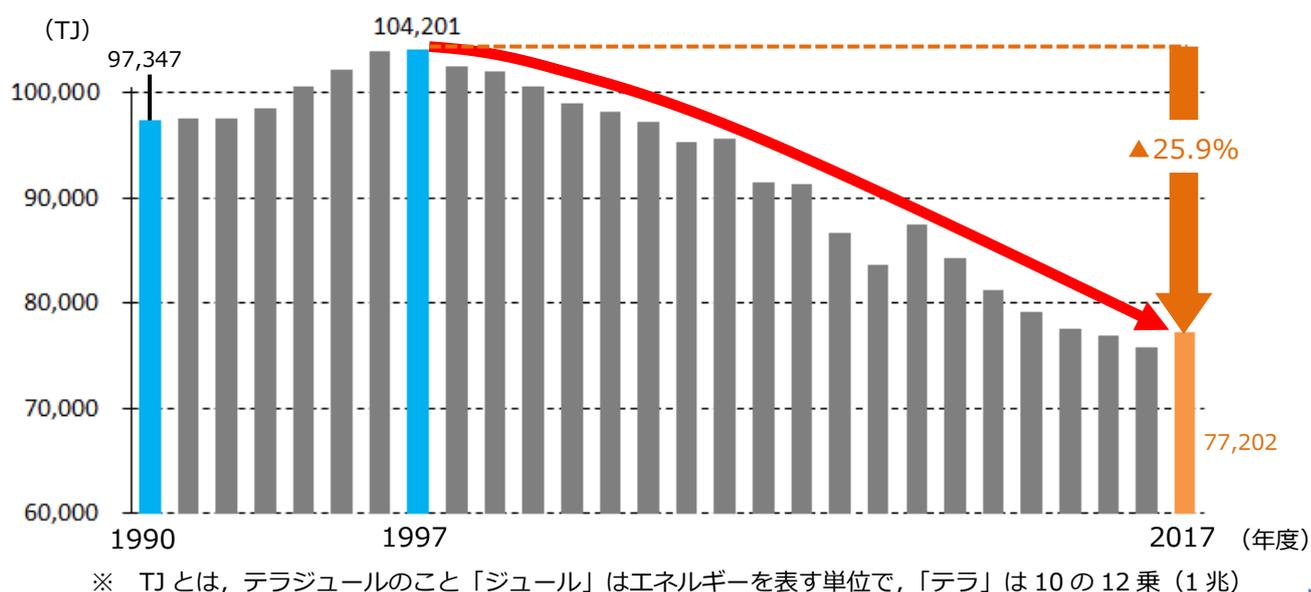
2017年度の温室効果ガス排出量は **710万トン**と、前年度から **42.3万トン減少**しました。基準年である1990年度からは **73.2万トン、9.3%の減少**であり、2020年度における削減目標の達成には、より一層の対策が必要です。



②省エネルギーの推進

2017年度のエネルギー消費量は **77,202TJ**^{*}であり、前年度に比べて **+1,369TJ、1.8%増加**しました。2017年度は冬日が例年より多いなど、冬季の寒さが厳しかったことから、家庭部門におけるエネルギー消費が増加したものと考えられます。

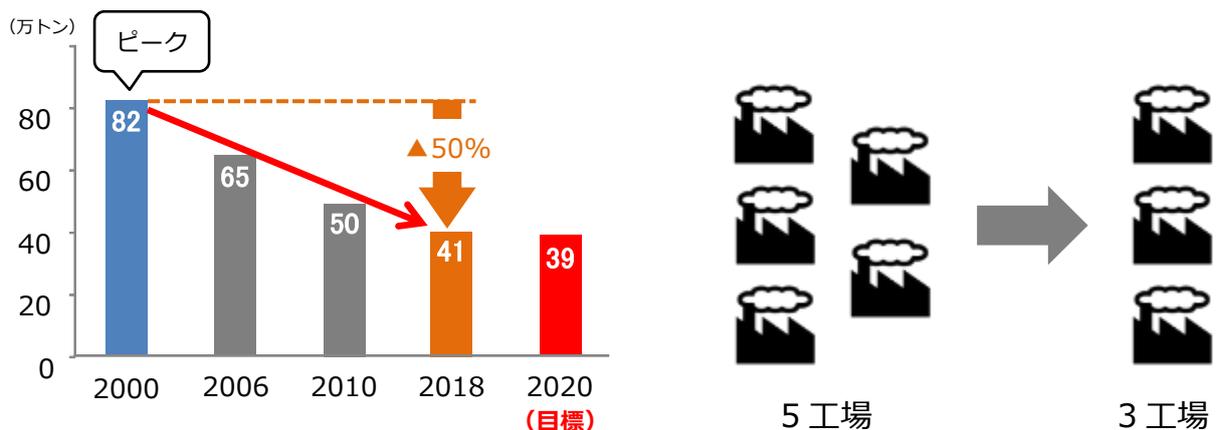
なお、1990年度に比べると **20.7%減**、また、ピーク時の1997年度に比べると **25.9%減**と削減が進んでいます。



③ごみの減量

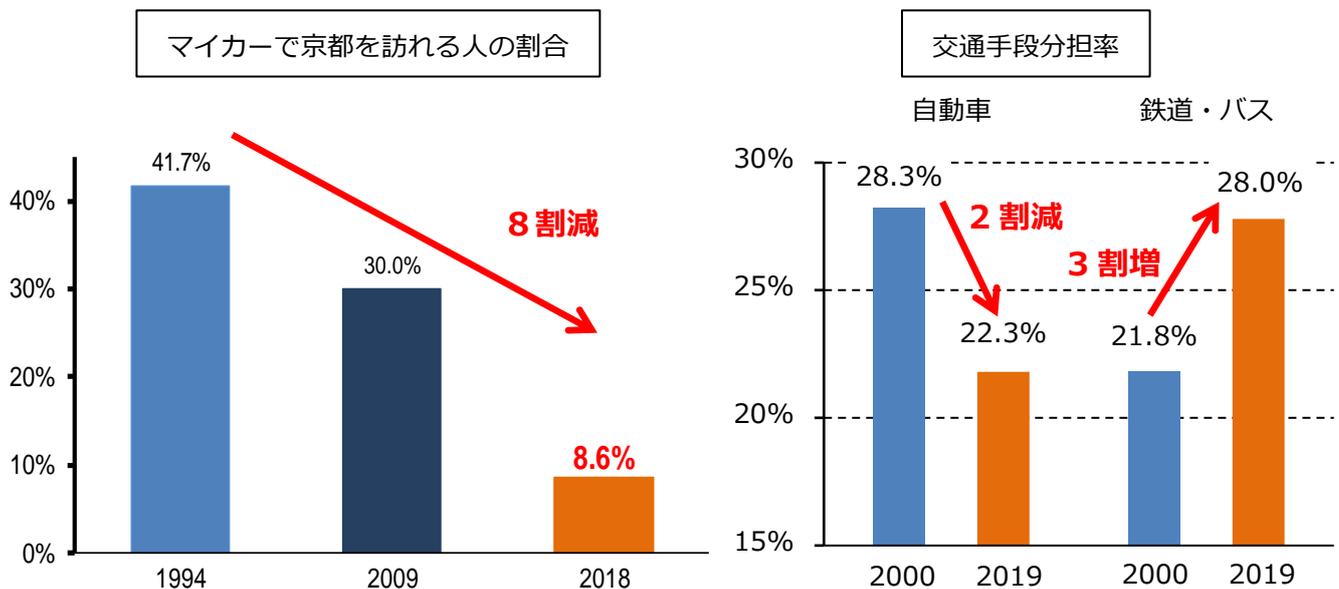
2018年度における京都市のごみ量は、市民、事業者の皆様のご協力・御尽力により、ピーク時（2000年度）の82万トンから41万トンまで減量が進み、ごみ半減を達成することができました。また、市民一人が1日あたりに排出する家庭ごみ量は399g（2018年度実績）となり、政令指定都市で初めて400gを切り、他の政令指定都市平均である555g（2017年度実績）の約3/4となっています。

その結果、5工場あったクリーンセンターを3工場に縮小するなど、年間162億円ものごみ処理コストを削減し、温室効果ガス排出量も15万トン削減できています。



④公共交通の利用促進

マイカーで京都を訪れる人の割合は8.6%と、1994年に比べてその割合は約8割減少しました。また、市民が移動のために自動車を使う割合は22.3%と2000年と比べて約2割減少し、一方で鉄道やバスを使う割合は28.0%と約3割増加するなど、クルマから公共交通への転換が着実に進んでいます。



社会像1 人と公共交通優先の歩いて楽しいまち



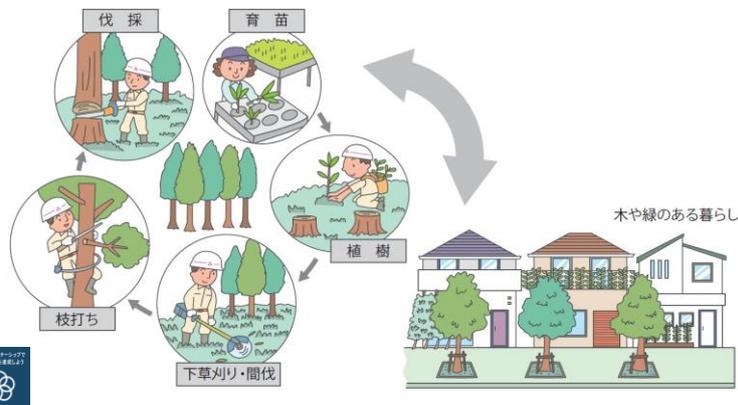
歩行者と自転車が共存するまちづくり

都心部地区等を重点地区と定め、「矢羽根マーク」等による自転車走行環境の整備を行うとともに、駐輪場の更なる設置促進を行っています。自転車走行環境は、2018年度末で90.1km整備が完了し、2018年度は、10件の駐輪場を設置しました。

また、1969年に開園した大宮交通公園を再整備し、自転車の安全な乗り方がいつでも楽しく学べる「サイクルセンター」を含む公園として再開園することを計画しています。2019年9月には、休園前の同公園で、自転車安全教室などを行うイベントを実施しました。



社会像2 森を再生し「木の文化」を大切にするまち



京都三山みんなの森づくり

京都三山において四季の彩りが感じられる森づくりを進めるため、市民の皆様との協働による植栽活動や学習会等を進めています。

具体的な取組例

- ・東山（キクタニギクの咲く菊溪の森づくり）
- ・西山（小倉山再生プロジェクト）
- ・北山（宝が池連続学習会）



社会像 3 エネルギー創出・地域循環のまち



再生可能エネルギー設備の導入支援

再生可能エネルギーの普及を図るため、太陽光発電システムや蓄電システムなどの設置助成を行っています。

再生エネ導入量は **4.7倍** に



2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018

再生可能エネルギー導入量の推移 (TJ)

注 ごみ発電、商用水力は除く



災害時における FCV の活用

2018年9月に発生した台風21号による停電地域(北区小野郷, 右京区水尾)へFCV(燃料電池自動車)を派遣し、停電家庭への電源供給など非常用電源として活用しました。



停電地域に派遣したFCV

社会像 4 環境にやさしいライフスタイル



既存住宅の省エネリフォーム支援

住宅の省エネ化の推進を目的に、窓の二重化や断熱材の設置、高断熱浴槽の設置等の省エネリフォーム費用の一部を補助する「既存住宅の省エネリフォーム支援事業」に取り組んでいます。

また、住宅の省エネリフォームは、環境にやさしいだけでなく、快適で健康な暮らしにつながります。



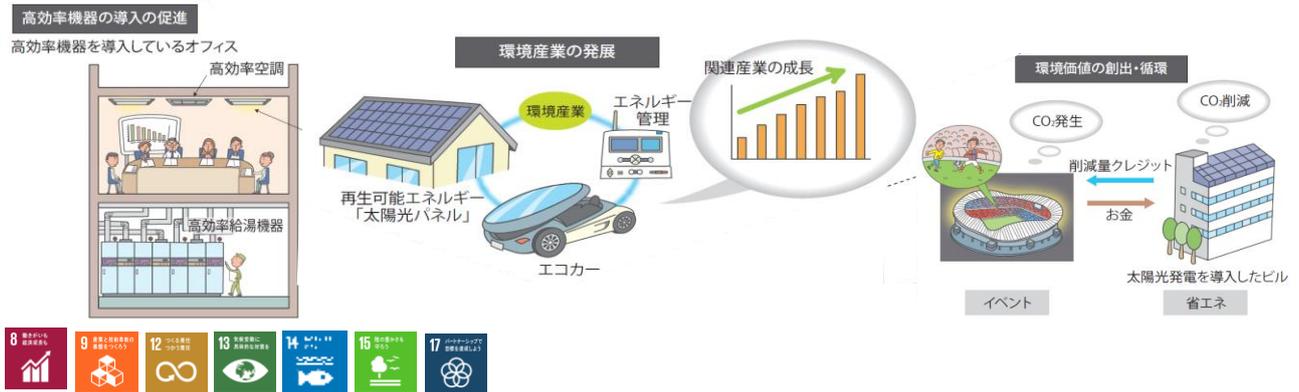
「京都らしい省エネ住宅」に取り組む事業者公表制度

市民の方が家を作る、購入するときの参考となるように、住宅の省エネ基準に対応でき、省エネにつながる京都の暮らしや和の文化を取り入れた仕様を積極的に採用した住宅を推進する事業者を施工事例などとともに紹介しています。

京都らしい省エネ住宅 HP



社会像 5 環境にやさしい経済活動



セルロースナノファイバーを活用した素材の研究・開発

京都市産業技術研究所では、セルロースナノファイバー※（CNF）で補強した複合材料の研究・開発を進めており、2016年度から、21の大学・企業等と共に、自動車部材の軽量化やCO₂排出量削減を目指す環境省「NCV(Nano Cellulose Vehicle)プロジェクト」に取り組んでいます。

2019年には、このプロジェクトの成果品となる、CNF部材を活用したコンセプトカーを「第46回東京モーターショー2019」に出展しました。

※強さは鉄の5倍、重さは5分の1で、木材繊維を微細化（ナノサイズ）したものが原料で、環境負荷の少ない素材



社会像 6 ごみの減量



大学生ごみ減量サポーター事業の実施

大学生等が SNS を活用し、自らが実践した日常生活における 2R や分別の取組内容を広く発信する「大学生・ごみ減量サポーター事業」を 2018 年 7 月から開始しました。

2018 年度は、市内 7 大学・26 名が学生サポーターの活動がありました。

販売期限の延長等による食品ロス削減の取組

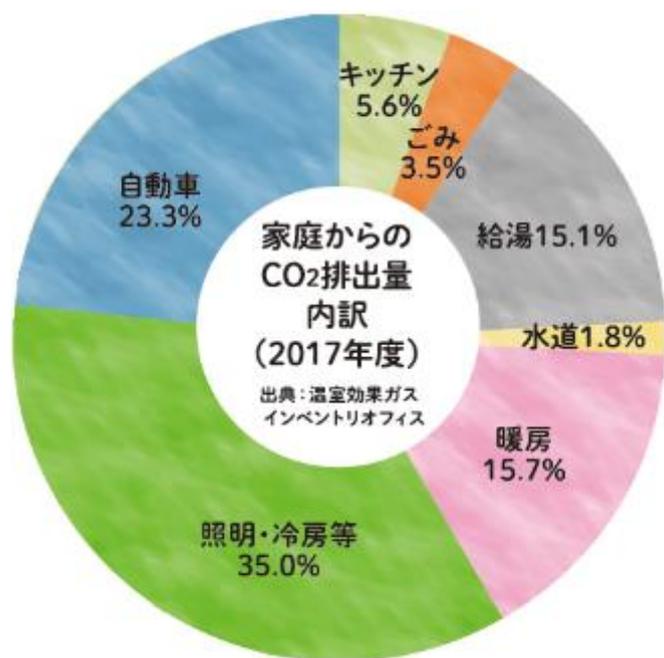
2018 年に市内スーパーの御協力の下、食品ロス削減効果に関する調査・社会実験を実施し、これまで賞味期限又は消費期限を待たずに廃棄されていた商品を、販売期限を延長することによって約 3 割の廃棄削減効果を確認しました。

私たちにできること

私たちの普段の暮らしの行動や選択を少し変えることで、地球温暖化対策につながるこの一例を紹介します。一人一人の行動の積み重ねが地球温暖化を防止します。皆さんも今できることから、始めてみましょう！

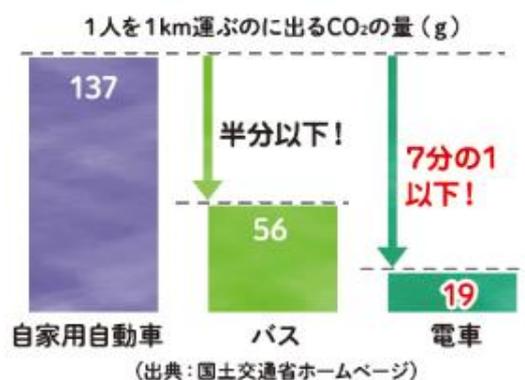
京都市では、「**DO YOU KYOTO?**」(環境にいいことしていますか?)を合言葉に、市民・事業者の皆様と一緒に地球温暖化対策を推進しています。

「京都 (KYOTO)」という言葉は環境の面でも世界で広く知られており、この「DO YOU KYOTO?」を合言葉に、**京都から世界に向けてエコの輪を広げています。**



公共交通機関や自転車を利用する

CO₂の排出量は、同じ人数を運ぶのに、電車はマイカーの1/7以下、バスは1/2以下です。マイカー利用を控えれば、CO₂は大きく削減！



節電・省エネに取り組む

省エネは、CO₂削減とともに節約になります

少しの工夫と省エネ家電の選択で、環境とお財布に大きな効果！

今すぐできる工夫 + 省エネ家電を選択



冷蔵庫 設定温度を適切に

年間節約金額 約 **1,670** 円
周囲温度 22℃で、設定温度を「強」から「中」にした場合

エアコン 2.8kw

年間節約金額 約 **4,698** 円

2007年と2016年の比較

冷蔵庫 401~450L

年間節約金額 約 **5,697** 円

2007年と2016年の比較

給湯 入浴は間隔を開けずに

年間節約金額 約 **6,880** 円
2時間放置により4.5℃低下した湯(200ℓ)を追い焚きする場合(1回/日)

ホットカーペット
設定温度を低めに

年間節約金額 約 **5,020** 円

設定温度を「強」から「中」にした場合
(3畳用で1日5時間使用)

照明器具

電球形LEDランプは一般電球と比べ

約 **80%**の省エネ

気候変動による影響への適応に関する取組

京都市では、年平均気温が100年当たり2.1℃上昇するなどの気候変動が観測されており、2018年7月には、梅雨前線の停滞や台風7号の接近による影響で記録的な大雨となり、京都府に「大雨特別警報」が発令されるなど、気候変動による影響が既に現れています。



2018年7月豪雨で増水した鴨川

そのため、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制する施策である「緩和策」に加え、既に起こりつつある、あるいは今後起こりうる地球温暖化に伴う気候変動の影響による被害の防止、軽減等の施策である「適応策」に取り組んでいくことが必要です。

このような状況を受け、2018年6月には「気候変動適応法」が成立し、我が国における適応策の法的位置づけが明確化され、適応策を推進するための仕組みが整備されました。

こうした中、京都市では、京都におけるこれからの適応策の在り方や進め方などを議論するため、2019年に府市協調で「京都気候変動適応策の在り方研究会」を設置しました。これまで、3回の研究会を開催し、地域適応センターを担う体制確保に向けて、検討を進めています。

祇園祭における暑さ対策モデル事業を実施しました！

2019年、祇園祭の前祭の山鉾巡行時を中心に、京都市及び京都市観光協会との連携により、民間事業者からの協力で暑さ対策をモデル的に実施しました。

市役所前でのドライ型ミスト装置の設置や、遮熱性の高い生地で作成した帽子の配布など、祇園祭に涼しく参加いただける取組を実施し、効果検証を行いました。また、検証結果を踏まえ、今後の暑さ対策の自立的な普及に向けた検討を進めています。



意見募集

「2050年までにCO₂排出量正味ゼロ」に 向けた地球温暖化対策に関して 皆様の御意見を募集しています。

気候変動の影響は、地球規模で既に顕在化しています。今後も温暖化が進めば、その影響は深刻化していきます。

人類は今、「気候危機」の時代に入り、これと戦うこと抜きに、これまで築き上げてきた生活も、文化も、存続させることができないという危機感の下、京都市では、2050年までにCO₂排出量を正味ゼロにするための方策を検討しています。

その参考とするため、皆さまの御意見を募集しています。

「こんな取組を実施したらどうか?」「こんな世の中になって欲しい!」「私はこんなことを実践している。」など、自由に御意見をお寄せください。

御意見はホームページで
受け付けています。



この冊子は、京都市の地球温暖化対策をまとめたものです。
より詳しい情報については、『京都市 年次報告書（本編）』を御覧ください。

【お問合せ先】京都市 環境政策局 地球温暖化対策室

〒604-8005 京都市中京区河原町通三条上る恵比須町 427 番地 京都朝日会館 5 階
(電話) 075-222-4555 (E-mail) ge@city.kyoto.lg.jp